

10月に開催するイベントや講座情報をご紹介します。秋は助成金プログラムが多数発表される時期でもあります。助成団体から資料がサポートオフィスに多数届きますので、関心のある方は、ぜひサポートオフィスにお立ち寄りください。



## 10/3 (木)

10:00~17:00

### 誰でも気軽に立ち寄れる地域活動のつながりの場 まちカフェ!オープンデー

📍 [会場] 町田市役所2階市民協働おうえんルーム



月に1回、市役所で開催しているまちカフェ!オープンデー。最近では団体の皆さんに定例会などの打ち合わせ場所としても活用していただく場面が増えてきました。サポートオフィスのスタッフが終日おりますので、まちカフェ!に関してはもちろん、地域活動全般の相談もお受けしています。10月はまちカフェ!インクルーシブ研究会やプチ講座も開催します(要予約)。カフェに立ち寄るような気軽な気持ちでお越しください。

#### まちカフェ! インクルーシブ研究会 障がいと共に地域で自立して暮らす

- 開催時間 11:00~12:00
  - 講師 前田のはらさん、前田知子さん
- 障がいのある方々が自立して地域で暮らしていくために、私たちや社会がどんな視点を持てるか、をいかに考えます。当日は障がいを持ちながら地域で生活をされている前田のはらさんとお母様にご登壇いただきます。

お申込みはコチラ!



#### 思わず参加したくなる チラシ作り講座

- 開催時間 13:30~15:00
- 講師 町田市地域活動サポートオフィススタッフ

参加者が思わず申し込みたくなるチラシを作る基本的なコツを事例と共に紹介します。チラシづくり初心者さんでも安心してご参加いただけるプログラムです。

プチ講座

お申込みはコチラ!



## 10/8 (火)

15:00~17:00

### 2025年度日本郵便年賀寄付金 助成金説明会・プチ講座

📍 [会場] 町田市役所2階市民協働おうえんルーム



日本郵便 年賀寄付金

説明会当日は、日本郵便株式会社年賀寄付金事務局のご担当者にお越しいただき、助成事業の説明や個別相談の時間をご用意しています。また「助成金とは」をテーマとしたプチ講座やこれからの助成金応募に活かせるワークショップ「助成金に応募するための企画立案はじめての一步」も実施します。

#### 日本郵便年賀寄付金とは

寄付金付き年賀はがき等の販売により集まった寄付金を配分する事業です。団体が所定の法人格を有していることが応募要件となりますが、対象となる事業分野が広いので多くの事業が対象となります。

こんな方におすすめです

- ✓ 日本郵便年賀寄付金助成金に申請を考えている方
- ✓ すぐの応募を考えていないが、助成金について知りたい方
- ✓ 助成金の申請書の書き方のコツが知りたいという方

お申込みはコチラ!



一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス

✉ info@machida-support.or.jp

☎ 042-785-4871 月~金 午前9時から午後6時 (毎月第三水曜日は午後5時まで)

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9-8 町田市民フォーラム4階

● JR横浜線町田駅から(徒歩約5分) 小田急線町田駅から(徒歩約8分)

● お車で越しの場合は近隣の駐車場をご利用ください



公式SNS 更新中



www.machida-support.or.jp

#### Now

地域活動団体×学生の  
取り組みが始まりました!

#### Topics

まちカフェ!インクルーシブ研究会(まち研)から探る  
誰もが参加しやすい  
イベントを行うポイント

#### Information

これから開催するイベント情報

左上から

- 1 学生おうえん隊×like minds
- 2 学生おうえん隊×まちだサポーターズ
- 3 学生おうえん隊×色彩心理グリーンハートラボ
- 4 学生おうえん隊×NPO法人子ども広場あそべどもたち×WA温
- 5 学生おうえん隊×景観3G
- 6 学生おうえん隊×Bamboo Village Farm



## Now 近況報告

### 地域活動団体×学生の 取り組みが始まりました!

11月30日から12月8日まで開催される第18回町田市市民協働フェスティバルまちカフェ!(以下まちカフェ!)は、市内で活動するNPO、市民・地域活動団体、ボランティア等が実行委員会を組織して、期間中に120を超えるイベントが市役所や市内各地で開催されます。

まちカフェ!には、大学生と参加団体がまちカフェ!に向け、力と知恵を合わせて共に活動をする「まちカフェ!学生おうえん隊」というプログラムがあります。今年も団体の皆さんと一緒に地域活動を盛り上げたいと応募してくれた24名の学生を10団体が受け入れ、活動がスタートしました。サポートオフィスでは団体と学生のマッチングや期間中のコーディネートを実施し、まちカフェ!当日に向けて、団体活動の新しい取り組みをサポートしていきます。また、サポートオフィスでは今夏、インターン生4名と社会教育主事の実習生1名を受け入れ、共に活動を進めています。今後、サポートオフィスのホームページ等で、「学生を団体に受け入れる際のポイント・留意点」や「学生の強みを活かす活動のコツ」などをご紹介します予定ですので、どうぞ期待ください。

#### Report

### サポートオフィスのインターン生・実習生の取り組み

👤 インターン生 4名

先月決定したまちだづくり応援基金の助成団体へこれから取り組む新たな挑戦についてインタビューをし、ホームページ掲載用の記事を作成しました。



インターン生向け研修の様子

まちだづくり応援基金  
助成対象者インタビュー



2024年度の  
まちだづくり応援基金  
助成団体について



👤 社会教育実習生 1名

サポートオフィスのイベントや打ち合わせ、各種相談事業への同行のほか、まちカフェ!オープンデーで開催するプチ講座「学生を受け入れるときの工夫を考えよう!~お互いが楽しく協働するコツ~」の企画立案及び当日の進行を担当しました。下記リンク先より、講座の中でお伝えした学生を受け入れるときのポイントをお読みいただけます。

学生を受け入れるときの  
工夫を考えよう!

~お互いが楽しく協働するコツ



# 誰もが参加しやすい イベントを行うポイント



毎年、多様な方が参加・来場される町田市市民協働フェスティバルまちカフェ!(以下まちカフェ!)。「誰もが安心して参加できるまちカフェ!にするための学びの場を作りたい」という実行委員会の声から始まったまちカフェ!インクルーシブ研究会(以下まち研)、ここまで3回実施しました。

インクルーシブとは、「包み込むような/包摂的な」という意味で、まち研では、性別・年齢・障がいの有無・人種などの違いを尊重し合い、誰もが安心して参加できる場を開催するために、知っておきたいポイントを学び合っています。ここからは、3回の実施から見えてきた**誰もが参加しやすいイベントを行うポイント**をご紹介します。

### CASE 1

## 車椅子など、障がいのある方とのコミュニケーションの取り方

【講師】内堀章子さん(手話ベリ場S主宰)

ご自身も車椅子ユーザーである内堀さんからは、ここまでの経験を軸に「障がい者って特別じゃない」というテーマで、「視覚障がい」、「聴覚障がい」、「身体障がい」、「簡単な手話」という4つのトピックで、イベントを実施する側として押さえておきたいポイントをお話いただきました。



### POINT インクルーシブな場づくりの3つのポイント

- 01 視覚障がい者が白杖を顔の前に高く掲げているときは助けを必要としているとき。「何かお手伝いしましょうか」と声をかけると良い。**コミュニケーション支援ボード**※の活用もおすすめ!
- 02 全てのろう者、難聴者が手話を使えるわけではない。国内でも地域や年齢層で使う手話が違う。**必ず目を見て話す。口の動きで理解できる人もいますのではっきりと話す。**
- 03 車椅子に驚いたり、避けたりする人が未だに多い。心のバリアフリーが浸透できるよう、**子どもの時から障がいについて学んだり、一緒に過ごすことができたりすると良い。**

### Column

#### ※コミュニケーション支援ボードについて

話し言葉に代わるツールとして絵を用いたボードで、「どうしましたか?」「トイレ」「気分が悪い」「迷子になった」「はい」「いいえ」「分からない」などが絵とともに示されています。英語も併記されているので話し言葉によるコミュニケーションにバリアのある外国人や高齢者、幼児などにも幅広く活用できます。

▼コミュニケーション支援ボードがダウンロードできます!



### VOICE 参加者の声

子どもの時から障がいのある方と一緒に過ごしていれば自然と身につく。大人になってから勉強すると大変。生まれたときからインクルーシブな環境でないといけないと感じた。



当日の様子やその他のトピックスはコチラ!



### CASE 2

## 子どもが安心してきて心地よく過ごせる場づくりのヒント

【講師】横山雅代さん(つるかわ子どもこもんず理事、子どもアドボケート)

日々地域の子ども学習サポートや居場所事業等を展開している横山さんにくどもの声をきちんと聴くをテーマにお話いただきました。**子どもの権利**※を軸とした簡単なクイズやワーク、参加者同士での話し合う時間を通じ、私たち大人がどのような姿勢で子どもと接して行くか良いのかを深める時間になりました。



### POINT インクルーシブな場づくりの3つのポイント

- 01 大人は物理的・身体的に、知識や経験などが子どもとは圧倒的な差があることを自覚する。子どもは、大人が意識しなければ社会的構造の中で無力化・孤立化させられてしまう存在。**子どもの言動の奥に、どんな願いがあるかということにも心を向けると良い。**
- 02 子どもの声は小さかったり、見過ごされたり、流されたりする場合があるので**その声をよく聴く姿勢が大切。**
- 03 差別は自分の中にもあるんだということを日々自覚しながら、**子どもを見る自分の目をアップデートしていくことが大切。**

### Column

#### ※子どもの権利について

1989年国連で採択され、日本は1994年に批准した「子どもの権利条約」。現在196の国と地域が締約している世界で最も広まった人権条約。全54条あるが、日本ユニセフ協会では具体的な子どもの権利を定めた第1~40条を、子どもにわかりやすい抄訳として公開しています。子どもが参加できるイベントを開催する前に、一度目を通してみるのがおすすめです。

▼子どもの権利が解説されている資料をダウンロードできます



### VOICE 参加者の声

子どもの教育支援という地域貢献としての観点のみならず、自身が今後子育てをするようになった際にも大いに生かせる内容で、良い学びになりました。



当日の様子やその他のトピックスはコチラ!



### CASE 3

## 視覚障がいのある方の日常を体験しよう!

【講師】ブラインドITサポート町田

当日の講師を務めたブラインドITサポート町田は、視覚障がい者が視覚障がい者にスマートフォンの使い方を教える講座を開催している団体。前半は視覚障がいを持つメンバーと参加者への質問タイム。後半は、参加者全員がマスクで目を覆い、ペットボトルとおにぎりを運び、おにぎりの包装をむいて食べる体験をしました。



### POINT インクルーシブな場づくりの3つのポイント

- 01 点字ブロックは、止まる、曲がるのみがわかるだけで行き先は書いていない。視覚障がい者が困っているのを見かけたら、いきなり大きな声をかけられるとびっくりするので、まずは**普段話す声の半分位のボリュームで声をかけてもらえる**と嬉しい。
- 02 「大丈夫ですか?」と聞かれると人は「大丈夫です」と答えてしまう。「何かお困りのことありますか」「会場まで案内しましょうか」など、**具体的に声をかけると良い**。特に多目的トイレは、視覚障がい者には使いにくい。便利だけど広すぎる。**トイレで困っている様子の方がいたら、「ご案内しましょうか」「場所をお教えしましょうか」と声をかけてほしい。**
- 03 白杖は足元しか探れない。**腰の高さに障害物があるとぶつかってしまうので注意してもらえると嬉しい。**

### VOICE 参加者の声

今後困っている方を見かけたら、声かけに工夫して接することができたらと思いました。もっと色々な方に知っていただきたいですね。

当日の様子やその他のトピックスはコチラ!



### 今後の開催予定

これからも様々なテーマで開催します。取り上げてほしいテーマがあれば、お気軽にサポートオフィスまでご連絡ください。右記10、11月のまち研は、まちカフェ!オープンデー内で開催します。ぜひお越しください。

10/3(木) 11:00~12:00

【テーマ】障がいと共に地域で自立して暮らす ※詳細は巻末ページを参照ください

11/7(木) 14:00~15:00

【テーマ】性の多様性を学んで、仲間になろう